

平成19年度第3回和光市国際化推進懇話会会議要録

- 日 時 平成20年2月13日(水)13:30から15:30
- 会 場 和光市役所6階 603会議室
- 出席者 山田浩人、宮内邦雄、近長武治、原田豊造
- 欠席者 田中明、溝田佳子、対馬聡一郎、鈴木直幸、宮嶋ひろみ(敬称略)
- 事務局 人権文化課長 牧野、人権文化課長補佐 河野、
文化国際担当統括主査 亀井、同担当主事 山口、国際交流推進員 後藤
- 配布資料

次第、第2回和光市国際化推進懇話会(H19.11.21開催)の協議の概要(資料1)、市民海外派遣事業に対するアンケート結果(資料2)、中学生海外派遣事業の成果と市民海外派遣事業に対する国際化推進施策としての評価(資料3)

※田中会長欠席のため、山田副会長が議長を務めた

◇ 議 題 ◇

1 最終報告における市民海外派遣事業に対する提言について(まとめ)

(1) 第2回会議の協議の概要(資料1)

事務局：資料1は、第2回会議の協議の概要を箇条書きにしたもので、本日の協議を進める上で、参考にしていただきたい。

(2) 市民海外派遣事業実績の評価について(資料2・3)

事務局：資料2は過去の市民海外派遣事業参加者に対してアンケートという形で意見収集を実施した。また、5ページ目に各問いに対する結果をまとめた。この結果を参考にしていただき、懇話会として市民海外派遣事業についての提案をまとめていただきたい。

資料3は、教育委員会が考える中学生海外派遣事業の成果ということで、当該事業の主な成果を6点挙げている。次に、市民海外派遣事業に対する国際化推進施策としての評価を過去6回に渡る事業を振り返り、よかった点、悪かった点を挙げている。

この資料2・3を参考に、前回会議に引き続き、市民海外派遣事業についての協議をお願いしたい。

宮内委員：市から引率した人の英語ができないという苦情が挙げられているが、それについての解決策についてきちんと回答することが必要。アンケートに答えてくれた人にきちんと答える姿勢が大事。ロングビューに行くことを希望する人に1年ほ

ど前から英語を教えるボランティアがいればよい。ロングビューに行くという励みにもなるし、参加者も増えると思う。私や理研の外国人が協力できるかもしれない。

近長委員：世界中にいろんな都市があるが、結論的に行くのであれば、「一期一会」という言葉があるように、現在少しでも関わりのあるロングビュー市にするべきであると思う。しかし、「異文化理解になった」や「交流になった」、「英語が話せてよかった」などというのは一般論であり、そのためにお金をかけて市民海外派遣を実施するのはあまり意義がないと考えるのが常識である。国際理解や異文化理解などというものは、一般論ではできないと思う。ロングビュー市がどのような歴史をもって現在に至るのかをきちんと勉強し、それを和光市と対比させながらやっていると、お互いのことが非常によくわかる。これが異文化理解である。それを深めるにあたって英語が必要になれば英語の勉強をすればよいし、英語を話せる職員が引率すればよい。英語というのはコミュニケーションの一つの手段に過ぎない。逆にロングビュー市の人が日本語を話せてもよいと思う。そうすると、一般的な国際理解ではなく、ロングビュー市について勉強したから、行くということにすれば「ロングビュー市へ行く」意義が生じてくるのではないか。

山田副会長：この資料をもとに前回に引き続き市民海外派遣事業などについて協議する。一つの方法に絞りきれない場合は、いくつかの方法を市に提案する形にしたい。異文化理解のためには事前の勉強が必要であるという意見も出たが。

宮内委員：近長委員に質問する。具体的にはどのような代替案があるのか。

近長委員：ロングビュー市との姉妹都市関係を「市民海外派遣事業」のみに頼っていることがよくないのではないか。例えば、図書館にロングビュー市から寄贈された図書があるが、それを積極的に活用すべきである。ただ、「読みましょう」ではなく、「寄贈された図書はこのように活用しています」ということをロングビュー市に報告してはどうか。異文化理解というのは、よその国のことを勉強するだけでなく、自分たちについても理解を深めることである。そのような勉強会のようなものをプログラムを組んできちんとやるのはどうか。つまり、人間が交流しなくても、お互いについての勉強が交流になると思う。これにより、前から問題になっている「一方通行の関係」にはならない。さらに、そんなに勉強するのであれば、「行ってみよう」という人も出てくるのではないか。できれば、図書館が主催するロングビュー市の勉強会を開催してはどうか。

山田副会長：過去の派遣事業の事前説明会はどのようなものであったのか。

事務局：訪問に当たっての旅行会社からの説明とちょっとした英会話が中心であり、ロングビュー市についての事前の勉強というものは、少ししか実施していない。

山田副会長：アンケート結果からはフォローアップがないという意見が多く出ているが。

事務局：派遣後に報告会は必ず実施していたが、それのみで、その後継続的に何かを…
というのではない。平成 17 年度より、ロングビューウィークとして PR 活動を始めたが、その際に平成 16 年度の市民海外派遣事業に参加した方々にご協力いただいたというのがはじめてである。

山田副会長：参加希望者が少ないということであるが、その原因について考えたことはあるか。

事務局：最近では海外へ行くことがそんなに「特別」ではなくなっている。だからこそ、何か目的を持っている場合には参加したいという気持ちになるかもしれないが、漠然と「行きますよ」では、「ぜひ参加したい」と思ってくれないのではないかと、ということが一つの原因であると思う。

原田委員：一つに目的意識の欠如である。他の自治体がどのようにしているのか、もう少し市は勉強しなくてはならない。

近長委員：「目的意識」というのはおっしゃるとおりであるが、このロングビュー市の場合には、当初は、特段の目的意識がなかったわけであるから、いろいろな努力や工夫をして、意識的に方向付けをしていかなければならない。それをつくるためには、例えば、和光市の歴史やロングビュー市の歴史を勉強する。そうすると和光市になにが足りないのか、和光市政に対するヒントが隠されているはずである。「なにもない」ということを逆に強みにして、何かをやったらどうか。図書館や公民館に実働部隊としてやらせてはどうか。そうすると、図書館に「図書の管理だけじゃない」、公民館に「部屋の管理だけじゃない」、和光市における文化の発信地なんだということを知ってほしい。新しいタイプの講座が必要である。普段図書館や公民館を利用する人たちに、上手く姉妹都市を売り込んではどうか。

山田副会長：他に意見はあるか。

宮内委員：例えば、平成 21 年にやるとしていた事業を結果的に 2 年、3 年延ばすということも考えるべきである。つまり、行くまでの準備期間を十分に設けるべきである。ロングビュー市の勉強、アメリカについて勉強するのも一つの方法である。また、和光自身に魅力がなければ、他の都市が和光へ来たいというはずがない。相手に関心を持ってもらうことが前身の一步。皆が目的意識を持って納得した上で、それから派遣を実施するべきだ。結論としては、もう少し準備期間を設けて、実行年度を 1~2 年延ばしてはどうか。和光市の文化全体のレベルアップをさせることにつながる。この他に、自分たちが自慢できる社会活動・福祉活動について PR するというのはどうか。和光市を魅力あるまちにするために、何かできればと思う。そのために理研を利用してもらえるのであれば、理事長をはじめ皆が協力

すると思う。

近長委員：今回の最終報告について、形としては3部構成にしてはどうか。1部を総論として市民海外派遣事業にどのような意義があって、平成21年度にやるべきかどうかということも含め、2つ目に「なぜロングビュー市なのか」、ロングビュー市に行けばこのようなメリットがあるということをも5つか6つ並べておいて、だからロングビュー市なんだということを押さえておきたい。3番目には各論として、このようなことをすれば、総論で述べたことを実現できるということを書いてはどうか。

山田副会長：平成21年度には「ロングビュー市へ行く」ということを前提に話を進めたいと思うが、先程宮内委員がおっしゃったように、準備をした結果的に2、3年延びるということもあってもよいのではないか。

近長委員：確かに。市民海外派遣事業を実りあるものにするためにはどうすべきか、ということが一番。そのために、10周年に向けて事業を仕掛ければよい。

山田副会長：そのための具体的な提案を今回、次回で決めたい。本日の内容を事務局にまとめていただき、次回までに具体的な提案をどうするかということを検討していきたい。

事務局：先程からの協議では、「実施時期ありきではない」という意見も出たし、実施に当たっての方法についても、複数の提案をいただければよい。

山田副会長：次に議題2に移る。

2 最終報告に盛り込む提言について（まとめ）

事務局：本日は最終報告に盛り込む内容をまとめていただきたい。中間報告とそれに対する市の取り組み状況も踏まえた最終報告にまとめていただくために、中間報告の要点と、中間報告を受けての市の取り組み状況を報告する。（参考資料を参照）

1 国際化推進のPR方法について。外国人に対する情報伝達システムの整備ということで検討しているが、まだ先進事例を調査している段階である。登録制度の整備だけでなく、発信言語の検討やコンテンツの検討などが、大きな課題とおり、今年度中の情報伝達システムの構築は難しい。今後は実施する方向で引き続き調査をしていきたい。

次に、国際理解教育の更なる充実について。学校教育としての各学校での取り組みは、例えば第三小学校で学校独自の外国人の教員を設置するなど、特徴的な取り組みが実施されている学校がある。今後もそのような独自の取り組みを行う学校が増えるよう、教育委員会や各学校への働きかけを行っていきたい。

また、前回会議におきまして鈴木委員より、小学校で姉妹都市の勉強をする機

会として『三年生の副読本「わこう」に和光市の姉妹都市であるロングビュー市について紹介するページを作ることについては、可能性はあると思う。』というご意見をいただいたことから、その実現に向けて教育委員会へ働きかけをしていきたい。

生涯学習としての取り組みは、例えば中央公民館での日本語教室、坂下公民館でのブラジル人を先生に迎えたポルトガル語講座など、各公民館で外国人を対象としたものや外国人の方を先生として迎え、日本人を対象とした講座など、毎年様々な講座が開催されている。

次に、広報わこうに「国際化推進のページ」を新設するという提案については、市政情報課との話し合いの結果、現段階での新設は不可能である。しかし、それを補うために現段階で実行可能なこととして、ホームページの充実などを行っている。

最後に、3 和光市国際ネットワークの充実について。今年度は、市民まつりの準備・反省以外に会議を設けたが、今年度中に再度会議を開催し、情報の共有を進めたいと考えている。事務局の主導ができていないこともあり、なかなか進んでいない。具体的な方法として事務局が月 1 回情報提供を依頼することは実行できていない。これについては、早急に対応する。また、ホームページのトップページにアイコンを置くことについては、担当課である市政情報課に相談したが、ホームページのリニューアルに伴い、個別のアイコン等を設置しない方針であるため、できないとの回答を受けた。以上が中間報告を受けての対応である。

近長委員：事務局の報告に対する率直な意見を言うと、計画も中間報告も文字ではきちんととなっているが、具体的には何もできていない。総論も重要かもしれないが、何か一つでもいいから具体的なことを実施することが大変大切である。現実に市民のニーズや市の実態を把握し、これが必要であるというものを取り上げて実施するべきである。今の報告にはなかったが、今人権文化課では外国人のための地図作りをしていて、アンケートなどを実施して外国人に意見を聞いている。それは、外国人のための情報伝達システムの整備という大それたものではないが、もしそれが一つでも具体的にできて、しかもその作成の段階で和光市に住んでいる外国人の意見を聴き、それを反映したものであるとすれば、大変使い勝手のよいものになる。それは、和光市が誇れる事業の一つとなる。これはできない、あれはできないではなく、一つでも具体的なものに取り組むという姿勢が必要ではないか。

国際理解教育について、先日中国からの転入生の件で第 2 中学校の校長先生から相談を受けたが、転入生の受け入れについて大変だったそうだ。日本語が一言

も話せない外国人が中学校へ転入してくることについて、詳細が全くわからなかったそうだ。どうして教育委員会と住民登録の担当課でコミュニケーションが取れないのか。市役所に問題意識がないからそのようなことが起きてしまうのではないか。

また、生涯学習として「ロングビュー市」を取り上げることも各公民館の取り組みの具体的な事業になりうるのではないか。

外国人に対する情報伝達システムの構築までは取り組めていないが、それに対する一歩として外国人のための地図の作成をしています、具体的な取り組みとしてやっていますと言うべきではないか。和光市国際ネットワークは市民まつり以外の活動をとということで、今回は学校教育課の職員に中学生海外派遣事業の報告をしてもらった。次回は構成団体の活動報告をする予定となっている。このように少しずつでも活動を広げていくことが必要である。

山田副会長：資料 3 は近長委員が作成された資料ということだが、中間報告を受けての市の取り組み状況についても説明があった。本日は、最終報告に何を盛り込むかをまとめなければならない。

近長委員：中間報告に載っていない内容まで最終報告に盛り込むのはなかなか難しいと思う。やはり、和光市の国際化施策の進め方として、和光市の外国人の特性を考慮すべきである。例えば、理研の外国人研究者やその家族に出身国について講演してもらおうということもできる。単発ではなくシリーズで行うことによって、国際理解、生涯学習となる。

宮内委員：研究者は本職が忙しいためにやりたくないという人もいるが、ご家族は、ぜひボランティアでやりたいという人がいる。学校などに話をもちかけるが、学校は引いた感じになってしまう。

近長委員：生涯学習としてできることであると思うが、人権文化課は直接的に公民館や生涯学習課に対して指図できない。懇話会の最終報告として、積極的に提言をしていくことで、チャンネル作りにつながるのではないか。

事務局：受けた提言は最大限尊重するが、100%その提言内容を実施するというお約束はできない。そのため、いろいろな視点からご提言をいただきたい。

宮内委員：できることを予め提示してもらえれば、こちらもそれに沿った提案をできるが、いろいろ提案してくださいと言われて提案したら、「これはできません、あれはできません」では、この会議が無駄になる。できないことを要求するつもりはないが、できる範囲がわからないため、いろいろ提案している。

近長委員：そのとおりだ。できないことをやれと言いたい訳ではない。しかし、今の事務局の話では、「何でも言ってください。やれることはやります。ただし、できな

いことはやりません。」、では納得できない。中間報告で提案したことが何も実現されていないという感じがする。

山田副会長：地図作りをしていることは、すごく良いことだと思う。また、実際に外国人と関わりを持っているのは我々のような活動している市民であると思う。しかし、ボランティアが防災や生活情報に関するアドバイスができるかということ、詳細がわからないためできない場合もある。そういったボランティア向けの勉強会なども必要であると思う。そういうことは、市がやるべきであると思う。

先日新聞で、越谷市のホームページに翻訳エンジンが付いていて、全ての情報が指定言語（多少おかしく翻訳されてしまうかもしれないが）で見ることができて、大変好評だという記事を見た。そのような対応も提言できればと思う。

他に何か意見はあるか。今回、最終報告として市民海外派遣事業に対する提案を1つ、2つ入れ込み、まとめなければならないのだが。

近長委員：懇話会は市全体の国際化推進を考えるためにあるのだから、市民海外派遣事業のみに偏らないように、中間報告をベースに、その実施状況も踏まえたものにしてはどうか。

山田副会長：それでは、本日の協議内容を事務局にまとめていただき、それを最終報告(案)として皆様に配布する。その(案)に対するご意見を再度いただく形にしたい。それでは、次の議題に移る。

3 その他

山田副会長：事務局から何かあるか。

事務局：先程、近長委員さんからお話があったが、現在、外国人のための地図を作成している。地図は、わかりやすい日本語、英語、中国語、韓国語の4種類を作成する予定。地図の作成にあたっては、なるべく多くの外国人の意見を反映させたものを作成したいと考え、アンケートを実施した。先日は、和光国際交流会の近長さんにご協力をいただき、日本語教室の外国人生徒さんにアンケートにご協力をいただいた。その他には、昨年11月に実施したバスツアーに参加された外国人の方や、市役所に来られた外国人の方にもご協力をいただいている。

完成したら、皆様にご提示させていただきたい。また、それに対する皆様のご意見をいただきたいので、よろしくお願ひします。

山田副会長：地図作りについて説明があったが、これについて何かご意見はあるか。

近長委員：完成する前に試作品を持って、実際に外国人と一緒に和光市を歩いてみてはどうか。使える地図にするためには足で稼ぐべきだ。また、市長に歩いてもらってはどうか。なぜなら、地図は「外国籍市民と市長の懇談会」で出てきた意見を

反映した事業である。市長が実際に歩いている写真を広報に載せて PR すべきである。大変なことであるが、検討していただきたい。

山田副会長：ウォークラリーなどをやっている自治体もあるのだから、その地図を活用した、遊び心を取り入れたイベントができればよいと思う。

事務局：出来上がる前には実際に職員で歩いてみるつもりでいる。外国人の方にも一緒に参加してもらえれば・・・と思うが。

山田副会長：これで本日の議題は全て終了した。これをもって議長の職を解かせていただく。

事務局：本日、宮内委員より資料をいただいている。この概要の説明をお願いできるか。

宮内委員：1 から 9 まで挙げているが、国際化ということが大目的として何かやる場合、この辺りまで検討してやる必要があるということを示した。実際に行うときの資料として欲しい。この中で一つ挙げるとすれば、「持続可能な活動」である。持続可能性があって初めて成長が望めると思うので、それを自分のプロジェクトにどのように盛り込むかということを考えれば、更に実りあるものになっていくと思う。

事務局：最後に、次回の会議について。年度をまたいで、任期は 7 月 31 日までとなっているので、第 4 回会議を 5 月下旬に開催したい。日程については、後日会長、副会長と調整して皆様に連絡する。

以上で第 3 回国際化推進懇話会を閉会する。長時間にわたり大変お疲れ様でした。